

2024年3月25日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 営業状況

・ 放送収入

2月単月、タイムは前年度と比較すると単発番組が少なく、前年比に届かなかったが、スポットは1月2月、共に前年比を超えることができた。

タイムは4月のレギュラーセールスは過去数年間と比較して、下げ止まりの兆候が見られる。

・ 放送外収入

3月15日(金)公開の映画「恋わずらいのエリー」は、公開2週間で興行収入2.8億円となっている。4月12日(金)公開の劇場版「名探偵コナン 100万ドルの五稜星」は函館が舞台となっており、北海道出身の大泉洋さんをゲスト声優として迎えた。

アニメ「葬送のフリーレン」は今週の総集編をもって最終話となっており、4月からは「転生したらスライムだった件 第3期」を放送。土曜日の枠は「ザ・ファブル」をお送りする。

美術展の「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」は4月7日(日)までだが、こちらの予想を上回る1日4700人を超える動員をしている。

イギリスのバービカン劇場で公演された舞台「となりのトトロ」は3月23日(土)に無事終了し、4カ月で16万人動員し、チケットはほぼ完売した。国内では丸美屋食品ミュージカル「アニー」が現在稽古中で、4月20日(土)から公演が始まる。

2. 質疑他

Q. 4月改編について

A. 近年にない大規模な番組改編を行うのでご期待いただきたい。具体的には土曜夜を中心としたGP帯を大改革する。

改編率で見ても近年最も高くなっていて全日は5.7%、プライムタイムは16.7%、ゴールデンタイムは10.8%となっている。

4月期のタイムテーブルを作成するにあたり、編成戦略をあらためて構築する作業から始めた。重視したのは、ひとつは、よりコアターゲットに訴求する番組編成にするコアマックス戦略。もうひとつは放送事業のみならず・配信事業も統合して考える総合編成戦略。

昨年個人視聴率3冠をとれなかったのは紛れもない事実であり、どのように変えていくかを考えた時、当社の強みである若年層に改めてターゲットを置き、そこを獲得することで、個人も底上げをはかっていけるタイムテーブルにした。

今週末に新番組「with MUSIC」の2時間スペシャルがあるが、4月からはその後ろに土ドラ9・土ドラ10と2枠連続のドラマ枠を編成し、強化している。

Q. 4月期土曜10時ドラマ「街並み照らすヤツら」のキャスティングについて

A. まもなくクランクイン予定と聞いており、主演以外のキャストも決まりつつあるので、タイミングをみて順次発表させていただく。

主演は、昨年「だが、情熱はある」でも主演を演じていただき、実績があるSixTONESの森本慎太郎さんが演じる。SMILE-UP.社とSTARTO ENTERTAINMENT社とは対話を続けており、個別案件ごとに適切に判断し、今回新規起用となった。準備期間が短い中で森本さんには大変な役割をお願いしてしまうが、森本さんのお芝居、またタレントとしての能力に期待している。

SMILE-UP.社の救済取り組み・進捗を注視しながら、適切に判断していくというスタンスに変更はない。

我々が申し入れた点についてはしっかりと対応して頂いており、対話も続けている。

今回タイトなスケジュールでドラマを作らざるを得ない状況となったが、現場の努力に期待したい。

Q. 10月期日曜ドラマ「セクシー田中さん」の調査について

A. 現在、外部有識者の方々に入って頂いた特別調査チームが、社内外の関係者に調査を進めている。公表は、ひとつの目安としてゴールデンウィーク明けと思っているが、ヒアリングの内容次第で時間がかかる可能性もある。調査結果についてはまとめ次第、適切な時期に公表する。最終的な目的としては、再発を防止し、より安心・安全な形でステークホルダーの方々にドラマ制作に協力して頂くことである。これに向けて十分なヒアリングを行い、将来のドラマ制作に資する内容にしたい。

Q. 今年の「24時間テレビ」について

A. 今年の夏の放送に向けて準備を始めたが、出演者や放送日、テーマやタレントの起用など、詳細についてはお伝えできる段階になったところで速やかにお知らせするので、もうしばらくお待ちいただきたい。

Q. スタジオジブリ映画「君たちはどう生きるか」のアカデミー賞受賞について

A. 現地で授賞式に出席し、想像以上にスタジオジブリと宮崎駿監督・鈴木敏夫プロデューサーの知名度が高く驚いた。現地の映画関係者に「なぜ作品が受け入れられたのか」を聞いたところ、回答は主に以下の3点に集約された。

1つ目は「風立ちぬ」以来10年ぶりの宮崎駿作品だということ。2つ目は、内容については理解が難しい部分はあったが『強烈なパッションを感じた』『圧倒された』という印象を持った人が多かったこと。3つ目は、アメリカでジブリ作品の配信が行われたことで知名度が向上していて、新作への期待する新しい層がいたこと。大きくはこの3点が受賞理由と思っている。

Q. ARM（アドリーチマックス）プラットフォームの構想について

A. テレビが出来て70年来、テレビ放送の商流は変わらず、それでよいのかという自問自答から出てきた発想である。

TVerにいた時に、インターネットでは普通に行われているアドテクを駆使して、クライアントとユーザーをより柔軟に、効果的に結び付けていくのが良いと思った。営業局の若手からも、同じ構想でスキーム構築していきたいと提案があり、着手した。

開発について、例えば局同士がどのように協力していくか、様々な考え方があり得るが、今のスポットセールスを例にとっても、各局工夫をしながら行っているので、足並みを揃えて、スピーディーに開発するのが難しい。まず当社とネットワーク局で進め、ある程度ニーズに答えられるようになった段階でお声掛けするのが良いかと考えている。クライアントにも理解を頂かないといけない。

民放業界全体として、良い方向へシフトしていけたらと考えている。

Q. 「世界の果てまでイッテQ！」のコンゴ民主共和国でのロケ対応について

A. コンゴ民主共和国大使館よりご指摘を受け、ご理解いただけるよう、ご説明をさせていただいている。内容については現地に行かないと分からないこともあり、スケジュールの問題や現地のさまざまな状況を受けて、ロケの内容変更があったことは事実である。当社の番組スタンスをご理解いただくことに努めている。

Q. 4月期日曜ドラマ「ACMA:GAME アクマゲーム」のAmazon配信について

A. コンテンツの配信は必ずしもHuluでしかやらない、とは決めておらず、作品ごとに判断する。「ACMA:GAME アクマゲーム」は世界も視野に入れて展開をしようとAmazon配信を決めた。

Q. 3月末に退社する藤井貴彦アナウンサーについて

A. 藤井アナウンサーは多くのスタッフ、共演者から信頼されており、結果として「news every.」を盤石の夕方ニュースに育てあげてくれた、立役者である。

社内で2012年から開催していた勉強会があり、藤井アナウンサーはその時すでに夕方のニュースキャスターだったが、皆勤賞で出席をして、積極的に質問をする努力家であった。また言うべき時にはどんな人の前でも自分が正しいと思ったことを発言する度胸もある。この2つの要素と彼の機転が加わり、ピカイチの生対応と視聴者目線のコメントが出来る、素晴らしいアナウンサーとなった。

これからも健康を大事に、新しい「news zero」の新境地を切り開いてほしいと期待している。

Q. 3月末で「news zero」を卒業される、有働由美子キャスターについて

A. 有働さんはNHKからの転身という形で「news zero」のキャスターをして下さった。24時間テレビではアフリカの子供たちへの支援を、自ら現地リポートして、ご自分の演出を交えながら、心に響く伝え方をして下さった。

4月からは歌番組「with MUSIC」を担当される。感動を届けるエンターテインメントなお人柄を、いろんな形で発揮して頂きたい。

Q. 3月末で「笑点」を卒業される、林家木久扇師匠について

A. 55年にわたり「笑点」を支えてくださった木久扇師匠には感謝しかない。存在そのものが視聴者の心をつかんでしまう人柄・芸風だった。今後も応援さし上げたい。

木久扇師匠の笑いは、昭和・平成・令和を全部乗り越えて、広い世代から支持されていた。感動に近いものがあり、そのような師匠を「笑点」は失ってしまうわけなので、今まで以上に頑張っていかなければいけないと、決意を新たにしている状況。改めて尊敬の気持ちを込めて、ご功労に感謝申し上げたい。

Q. 巨人戦開幕について

A. 45歳の阿部監督になり、チーム全体も若返った。宮崎キャンプでは監督自ら選手に声掛けし、積極的にコミュニケーションをとっていた。キャッチコピーでもある、新生巨人の「新風」に、大いに期待している。

(了)

石澤 顕	代表取締役社長執行役員
福田 博之	取締役専務執行役員
於保 浩之	取締役専務執行役員
澤 桂一	取締役執行役員